

# 市政を問う！ 一般質問

一般質問とは、議員が市政全般にわたり、市の考えを問うものです。今回の議会では、16人の議員が一般質問を行いました。掲載した内容は各議員本人が要約したものです。なお、全ての質問と回答は市議会ホームページの会議録で閲覧できます。

## 子どもの貧困対策

渡辺 大議員

「教育！」  
このみが、貧困の連鎖を断ち切る唯一の方法。貧困により、そもそも子どもが持つ「希望」「意欲」に格差が生じるというデ

応していく。

## 保育園、放課後児童クラブ

ベビーシッター、保育ママ、居宅訪問型保育事業等は、増減に柔軟に対応可能。市の方針は。練馬区の保育ママ制度等を参考にします。長期休み中の放課後

児童クラブで募集のないところがある。学校施設の転用等で対応できないか。

学校施設の転用等を教育委員会と検討する。

## スーパーで期日前投票を

予算的課題があるとのことだったが、検討のこと

進捗状況は。大型商業施設等に協力依頼を実施していく。ふじみ野高校での模擬投票イベントも企画中。

## より長く健康でいるために

健康寿命の延伸に向けての取り組みは。民間事業者と連携し



元気・健康マイレージ事業を実施し、健康寿命の延伸と医療費削減を目指す。

## 民生委員の活動を支えるために

島田典朗 議員

今年、民生委員は改選を迎えるが、定数割れの状態。今後の考えは。現在6名の欠員だが、世帯数が2千世帯以上増えたため、3名の定数増の予定。欠員については、引き続き選任を求めているが、必要に応じて地域

を全世帯にポスティングしている。今後、転入手続の際にパンフレット配布も検討したい。

## 家庭での保育を支えるために

セーフティネットとしての一時保育の役割は。リフレッシュの希望や相談があれば一時保育のあっせんも行なっているが、実際には保育士不



さらに一時保育施設を増やし、制度の充実を。新たに2園が4月から一時保育を開始。他に2園が、体制が整い次第実施の予定。

## 保育環境情報の充実を

加藤恵一 議員

公立・私立を含む子育てガイドブックを作成できないか。5月中を目途に公立・私立の各認可保育所の案内も併せて掲載した子育てガイドブックを作成中である。関連施設を通じて子育て世代に配布予定。

## 自主防災力の強化

防災・防犯メールの登録者数と今後の課題は。現在、防災メールは6427人、防犯メールは5530人。課題は、発信ツールの拡大と速やかな配信である。ツイッター等を併用し情報発信のツールを広げ多くの世代に浸透できればと考える。

## 犯罪被害者支援の充実を

谷 新一 議員

犯罪被害者等の支援、相談体制の現状は。DV被害者については配偶者暴力相談支援センターを設置し、相談・支援を実施している。他の犯罪被害者等については相談内容に応じて各専門相談につなげ、さらに被害者等が生活困窮等に陥った場合には、福祉総合支援チームで支援がで

きるよう連携を図っている。

犯罪被害者等基本法第5条によれば、地方公共団体の施策策定と実施する責務が明記されている。どのような考えか。

まず相談体制の充実、関係機関との連携を密にする。また、条例制定や見舞金、広報啓発等の具体的施策は、今後市

## 命を大切に教育

実施状況は。「彩の国の道徳教育」や朝会での校長講話、いじめ防止の児童生徒会活動、埼玉県警の出前講座「あおいとり」による犯罪被害者の講話など、命の大切さを考える機会をつくり、子ども達の心

として方向性を検討していく。に届く教育を行っている。



## あったかいまちへ 着実な前進

鈴木啓太郎 議員

福祉総合支援チームが発足して一年になる。生活困窮者支援の成果は。就労支援と一体となって再就職

を果たしたり、各種サービスを利用して困窮状態から救済する等自立支援の効果がみえている。専門家の力も借りて

貧困から就労へ自立

たに配置するがその役割は。チームの受け

る相談はこころの病や引きこもりなど、様々な制度や機関の調整を図る必要がある。福祉の専門職によるコーディネートが期待される。

## 新しい施策も

のためには中間的社会的資源が必要ではないか。すぐに就労が難しい方の自立支援のためには段階的な支援の提供が必要だと考えている。平成28年度はサテライト事業をスタートさせ、未就労者の社会参加に向け取り組んでいく。

## 市民の力を育成する

市民後見人の育成への課題は何か。高齢社会の進行により認知症高齢者の増加が見込まれるため、社会福祉協議会の監督のもとに講習カリキュラムを作成、受講者を確保し実際の支援を担う市民後見人を育成していく。

の課題は何か。高齢社会の進行により認知症高齢者の増加が見込まれるため、社会福祉協議会の監督のもとに講習カリキュラムを作成、受講者を確保し実際の支援を担う市民後見人を育成していく。

